

昭和四十二年七月三十日招集
第三面市議會臨時會會議錄

鎌山市議会第三回臨時会全議録

昭和四十二年七月招集

一七月三十一日(月曜日)

一現在議員三十名在座、氏名次々とあり

一番	吉田 勇治郎	二番	石井 輝久
三番	嶋田 仁蔵	四番	伊賀 多朗
五番	藤田 益治	六番	磯 辺 博
七番	白熊 盛太郎	八番	黒川 正
九番	三幣 勇	一〇番	西村 真次
二番	菊井 敏博	一二番	小柴 孝
一三番	山田 教字	一四番	遠山 ヨネ子
一五番	石井 正	一六番	五十嵐 昇
一七番	江田 徳太郎	一八番	安西 益男
一九番	島野 茂樹郎	二〇番	中村 省吾

二番	関 武夫	二二番	小澤 惠太郎
二三番	飯 日義男	二四番	田 中 祿 郎
二五番	田 村 源 治 郎	二六番	秋 山 六 三 郎
二七番	安 沢 徳 順	二八番	望 月 照 正
二九番	鈴 木 市 蔵	三〇番	山 根 康

一 議事日程

第一 助役の選任について

第二 飯山市一般会計補正予算（第一号）

一 法第百三十一条による出席説明員

市 長	本 間 謙
助 役	小 火 武 男
秘 書 課 長	小 倉 澄 男
人 事 課 長	小 沢 正 治
庶 務 課 長	山 口 実

財政課長

長谷川 広治

市工観光課長

山 日 俊 康

教育委員会
庶務課長

干 場 伊 右 工 門

同
社会教育課長補佐

尾 谷 秀

市民課長

羽 山 房 雄

収入役室主席

角 田 巖

一本議会事務局長、局長補佐。書記

事務局長

高 梨 清 一

事務局長補佐

太 田 博 雄

書 記

矢 藤 恭 一

同

齊 藤 武 男

同

庄 司 徹

同

錦 織 睦 子

一出席議員 二十八名

一、大席議員

二名

午前十時十八分 開議

議長(吉田勇治郎君)本日出席議員数 二十八名。

こより第三回市議会臨時会を開会いたします。

本臨時会、議案審査のため、地方自治法第百二十一条の規定による出席要求に対し、本間市長、小出助役、小倉課長、小沢課長、山口課長、長谷川課長、山田課長、羽山課長、千場課長、尾谷課長補佐、角田主事以上が出席する旨の報告がありました。

会議録署名員、決定を行ないます。

本臨時会の会議録署名員に四番議員井伊賀多朗君、二八番議員望月照正君以上両君を指名いたします。こより御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。さう決定いたします。

会期を決定を行ないます。

本臨時会、会期につき、議会議長、各協議会、意見は本日一日ということであります。

おはかりいたします。会期を一日と定めます。ことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって会期は本日一日と決まりました。

本日、議事は、お手元に配付の日程表により行ないます。暫時休憩いたします。

午前十時三十分

休憩

午前十時三十分

再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
こゝより本臨時会招集の案件につき、市長の説明を求め
ます。

(市長登壇)

市長(本間譲君)開会に当たりまして一言ごあいさつ申し
上げます。

きょうは非常に暑いにもかかわりませず、急遽御審議を願
う案件が生じまいなうで、ここに館山市臨時市議会を開
催しにわけてございますが、議員各位には御多忙なとこ
ろ御参集をたまわりましてまことに恐縮に存する次第
でございます。

本日は付議案件といたまいしては人事関係、それから一
般補正予算と二件になるわけでございます。

人事関係につきましては、助役が本日をおもちまして任期満

了と相なるわけでもございまして、市の月滿な市政の運営のために、早急に助役の選任を同意をお願いいたします。

また一般補正予算につきましては、饒山にござる国民金融公庫の支店が設置されることに相なりまして、これは大体九月に開店するということでもございまして、設置場所が関係者によりまして配されておりました。結局図書館の二階を改造して、これに充てる。公庫の方では、一年か一年半位の間、新しい建物を建てる。こういうことでもございまして、改造費としまして百五十万を補正をお願いいたしますが、これは施設を手伝って、いきたいと思います。わけでもございまして、これは中小企業者、勤労者、農漁業者、零細の方々の振興のために、非常に大きな役割をするわけでもございまして、その点、御承知のとおりであります。

それから償還会というものが、国民金融公庫の金を借りた方々によつて今日まで十年間位繰返して参りまいなが、償還會に付きまゝでは現在三十万位う赤字があるやうでございませうが、それに対して十方だけう助成金を出して育成しようという事でございませう。もう一つは税金う還付金を五万円計上げてあるわけでございませうが、補正予算としましては以上う内容でございませうが、くわいことにつきまゝでは、上程の都度課長から御説明申し上げますからよろしく御審議をお願いしまして御同意をくださるやうに切に願ひする次第でございませう。

議長（吉田勇治郎君）日程第一議案第四十五号を議題に供します。

（書記朗読）

議案第四十五号 助役の選任について

(市長 登壇)

市長(本間譲君) 助役より選任につきまゝて申し上げたいと存じます。

皆さん御承知のように小虫助役は長い間、館山市の発展のために尽くさまゝで、その方面につきまゝては人格、識見ともに非常に優秀な方でございます。

なおまた現在、館山市におきまゝては、今までにない大きな組合水道とか、市民センターとか、北条小学校の買収とか、南部水道、或いは房南中学校の建設とか、大きな問題がこみにございまゝて、助役がやはりこゝに協力してゐるまゝで、いろいろ事情もわかつておりますから、市長といひまゝでは、ぜひ、この際、小虫武男君を御推薦申し上げまゝて、皆さま方の御同意を満場であげたいと思ふ次第でございます。

議長(吉田勇治郎君)おはかりいたします。本案を原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって本案は、原案通り可決、確定いたします。
日程第二議案第四十二号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第四十二号 館山市一般会計補正予算(第一号)
議長(吉田勇治郎君)暫時休憩いたします。

午前十時四十七分 休憩

午前十時五十分 再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

議事の中間ではございますが、ただ今選任さすまいに助役
に對しまして、市長から紹介いたしたい旨を申し述べござ
いますので、暫時許します。

・市長（本間讓君）任期満了にります。助役の選任につきま
しては、ただいま私が現助役の小出武男君をもつとも、前任
者と考えまして御推薦を申し上げまいなところ、議員の
皆さん方には、満場一致をもって御同意をいただきまして
まことにありがとうございまいな。

小出君は非常にその方につきましては、明かるといふ旅な人
格を持ち主でございます。私も御承認を得まして、
非常に力強く考えておるわけでございます。

こう際助役と一体となりまして、館山市の発展、なめ
できるだけの尽力をいたしたいと思ひます。

ただいまから助役を御紹介申し上げまして、助役からごあ

いさつを答さま方になりたうと思ひます。

(助役登壇) (拍手)

・助役(小虫武男君) 私が本日を持ちまして三期の任期を満了
することになりまして、たゞいま、市長さんからお言葉にま
ますと答さま方、御推挙を得まして、さらに再任という
ことでございまして、本当に光榮に存ずる次第でございます。
過去相当長い期間、答さま方、御協力と市長さん、御
援助を得まして、曲りなりにも、参りまいたが、非常に
長い間、つきまゝ、それぞ、答さま方から受けまいた、御
援助は身に及びて、感づておる次第でございます。
再任を受けまいた以上は、最後、御奉公という考えで、さら
に、機一転、市長さんの相談役として、答さま方、格別の
御援助、御高配を得まして、御奉公、たいと思ひます。
どうぞよろしく願ひたいと思ひます。

簡単でございますが一言お礼を申し上げたいと思ひます。

(拍手)

議長(吉田勇治郎君) 議事に入ります。

財政課長(長谷川広治君) 議案第四十二号、一般補正予算に

ついて御説明申し上げます。

歳入追加金額が百八十六万八千円でございます。

歳入も同額でございます。歳入歳出追加後、予算総額

が十億二千五百一十七万七千円でございます。

第一条として百八十六万八千円を歳入歳出それぞれ追加いた

しまして追加後の予算総額を十億二千五百一十七万七千円と

いたらない予定でございます。

百八十六万八千円の内容は次、印刷物にございます。予算サ

補正でござんいたなきたいと思ひます。

説明は事項別明細書により御説明申し上げます。

歳出から申上げますと、今回補正予算におきまして、総務費に二十万追加をいたしております。そううち、総務管理費、諸費に十五万、そううち、二十三節の償還金、利子及び割引料として十五万、こゝは今回の法律改正に基きまして、法人税割等、に若干の還付金を生じましたために、少額ではございますが、還付しなければならぬ金額、さらに若干の誤謬等、で十五万円追加いたしまして、早急に支払いたいた。かように考えて十五万計上いたしました。なお、賦課費として、それに関連いたしますものが、市税還付加算金として、五万円計上しております。こゝは十五万に付属する利子と申しますか、それを付けてお返しする、という金額でございます。

商工観光課長(山田俊康君)七款商工費について御説明申上げます。

今度、補正は十万円、館山市融資償還会補助ということでも願ひたい。

先ほど市長のあいさつの中にありましたが、国民金融公庫が設置されることにより、従前より運動に尽くして、もう一たび館山市融資償還会、現実には融資償還会ができましたが、三十四年四月、目的は館山市の中小企業、振興対策、育成、福祉増進というふうなことをめざして、国民金融公庫から資金を借りて、いる人たちを集めようということ、発足しております。

現在館山市内で二百四十件、国民金融公庫から借りております。金額が四十一年度末で八千二百万円位でございます。現実には融資償還会自身が国民金融公庫支所誘致に要する経費、三十四年に設置されるから、大々的に行ないました。三十四年よりあります。現在までに支所誘

政關係で三十八千円と支出されております。

今度支所ができ上りますと、融資償還金は自然消滅という二つになるわけですから、赤字が累積してまいります。で、現実に館山支所、誘致に使っておりまして、願う一部を補助して、今まで、館山支所、誘致に尽くしてまいりました。そうして支所ができますと、赤字をかかえて、会員も思うようにでないということでございます。特にお願いする次第でございます。

います。

・社会教育課長補佐(尾谷秀君)図書館の先ほど市長から御覧明がございまして、館山市金融公庫支所にお借りするため、二階の改修工事をするためにも願ういたします。願が百五十万八千円でございます。この願の内訳は、大体屋上、エレベーターは、三万七千円、玄関の改装工事等で、合計百五十六万八千円程度お願いいたします。一緒に御使用できるように。

改装いたらないと思ひまゝに願ひする次第でございます。
 財政課長（長谷川成治君）以上で追加総額が百八十六万八千円と
 うにと相なります。

続きまして歳入に移ります。歳入として歳出同様百八十六
 万八千円を追加申上げたいでございます。今回も歳
 出執行に伴ひまして物特定財源として入りますもうが四
 十二万でございますので、差額が不足財源百四十四万八千円を
 収益事業収入として競輪収入から見まして歳出と同額
 といいたわけでございます。競輪関係の事業収入につ
 きましては四十二年度当初予算で四千四百万計上いた
 っておりますが、現在事情及び四十一年度、実績から
 考えて相当額、余裕財源ができるのではないかとい
 うような考え方から、他の諸収入につきましては、現在確定
 しておりますものがほとんどございまして、おむを得ず

今回競輪関係から百四十四万八千円、不足額を財源として計上いたりました。

先ほど御説明うかがいました図書館を改装後貸し付けいたします箇所から行政財産の使用料として月六万の二ヵ月分をいただくということ、四十二万円計上いたりました。歳入を百八十六万八千円ということになります。以上で予算関係の説明を終わります。

○五番(石井正君)金融公庫の事務所を貸すわけですが、いつから貸すか、それから貸借関係ですが、これは無料に貸すのか、月々の位で貸すのか、それから図書館の訪問に、貸してもさうつかえはないか。

・社会教育課長補佐(尾谷秀君)申し上げます。大体修理をいたしまして九月から貸しする予定でございます。

それから家賃といたしまして月六万円程度、歳入

と予定しております。

それから現在図書館は下を使用しております。関係で二階を貸しても市民が皆えにはさほど御迷惑はかからぬのではないかと考えております。

・二八番(望月照正君) ちよとお伺います。先ほど融資償還会と国民公庫の関係は大体わかっておりますが、これはあくまでも国民金融公庫から融資を受けておる人たちの団体で融資償還会はいわゆる任意の団体だろうと思っておりますが、そうであるか。これが一点。もう一つは国民金融公庫を館山市に誘致するため、そのために三十万八千円の費用がかかったのだという説明を受けたいように思いますが、あくまでも館山市の中小企業を育成するため国民金融公庫を誘致であるならば、三十万八千円、金が一現実に誘致するために使った費用であるならば、当然

融資を受けたい団体にも、この融資を受けている団体にも、
相当負担させることは市の方針にも反すると思いますが、もう
一つは逆の立場から考えますと、融資を受けている人たちは、
二百八十件、総額八千二百万円。二百四十件の中に館山市の
中小企業の預託融資金を利用してゐる人がおるか、お尋ね
いたします。

・商工観光課長（山田俊康君）第一点の任意団体であるかどうかと
いう点でございますが、任意団体であります。

第二点、昭和三十八年から現在までの支所誘致費として支出してお
りますのが、三十万八千円。中小企業育成という立場からすれば
当然三十万八千円全額補助しなうどうか。一応市の財政的なこ
とを考えまして、現実には解散するに当り、会員から今まで
会費を徴収しております。会計等を見ますとどうしても解
散ができないという金額が約十萬、十萬あれば何とか解

散でできるという観点から、一応今回最少限必要なものを
 というところでお願いいたします。

預託融資の関係ですけれども、これは確実に調べ上
 げてございませぬ。

金融公庫で借りまわした人なりの中にも、いることは事
 実だと思ひますけれども、何人おるといふことが明言で
 きません。

・二八番(望月照正君)第一点の三十万八千円の内訳につきましては
 発展的解消するにやむを得ない費用が十数万不足だといふことですが、
 あくまでも主管課の方といふことでございまして、任意団体でござい
 ますから、三十万八千円のうちが、確実に誘致するにやむを得ない費
 用であるといふことがはつきりわかるならば、当然出てやるべ
 きだと思ひます。一か一なから、三十万八千円という方が、
 確実に誘致するにやむを得ない直接費用であるかといふことに

疑念を持ってあります。疑念を持っておる中で任意団体
の償還会に対する補助金が十万円だということとは確実に
誘致するため費用であつたならば結構ですが、そうでな
かつたらむかし補助金だと思ひます。もしそうだとすば
金額を上げてやるべきだと思ひます。その点もう一回御答
弁願ひます。

・商工観光課長(山田俊康君)今までの決算書等を見せていた
だきまして支所誘致費という名目で支出された金額
で四十二年度の決算に上つてあります。ところが二十六万八千円
四十二年度に今度は国民金融公庫の設置がきまりま
す。このちに住宅等の手金と申しますか、そういうことであ
つせんということでは四万八千円出てあります。それらを合計
いたしまして三十八万八千円。従前の決算書が承認さう
あります。もう一度調べた結果、こういうふうに出てあります。

。三八番(望月照正君)償還会の啓さま方が公刊のつもりで国
民金融公庫の誘致運動もいたうだという事実がある
そのため課長も非常に困つてゐると思ひます。

その点助役さんお伺いいたんですが、この問題は何回
もくどいように申しわけないけれども償還会の方たちと
よく御相談願つて二十五六万八千円ですか。直接費用が
かかつたというのが確実に支出されてゐるなら当然市
の方でもう少し出して償還会の方まづめに行動した方
に報いるべきではないか。こういうふうに考えますが、助役
さんお願ひします。

。助役(小沢武男君)ただいま御質問ですが、この運動を
始めましてからすでに六七年経過してありますから、非
常に償還会の方幹部の人が熱心にやらせて、幹部
の方たちが若干持ち寄りてゐることは、私にも承

知っております。

その後におきまして商工會議所と市と一緒になって若干の経費は負担しておるはずでございますが、今申しますようにそういう目に見えない金と申しますか、会として、決算上出てくる赤字でなくて、かげりも、大体予想にまゝなので、幹部、人と相談、まゝの結果、とりあえず、これだけいなければ解散できるから、ということ、妥協点でこの額を計上したわけでございます。

議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。

本案を原案通り可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は

原案通り可決されました。

以上により本臨時会に付議されました案件全部を議

了いたしまし。ま。つて臨時会を閉会いたします。

午前十一時十三分 閉会

本日の会議に付いた事件

一、議事日程に同じ。

出席議員

吉田 勇治郎

石井 輝久

嶋田 石蔵

伊賀 多朗

藤田 益治

磯 辺博

白熊 盛太郎

黒川 正

三幣 勇

西村 真次

小柴 孝

山田 教宇

遠山 三不子

石井 正

五下嵐 昇

江田 徳太郎

安西 益男

島野 茂樹郎

中村 省吾

関 武夫

小澤 恵太郎

飯田 義男

田中 祿郎

田村 源治郎

秋山 大三郎

安沢 徳順

望月 照正

鈴木 市蔵

欠席議員

菊井 敏博

山口 康

昭和四十二年七月三十一日

右会議、次第を録し、こゝに署名す。

館山市議会議長

志田 芳樹

同 署名議員

伊 加 具 多 朗

同

磯 月 照 子

